

消費者事故情報等の集約状況 ③(子供の事故)

- 「消費者目線」の実践の在り方としては、生活弱者の目線、就中、子どもの事故をなくす目線の重要性が指摘されているところ
- 子どもの事故については、特に事故情報と頻繁に接している救急救命医師、小児科医師等と連携し、被害拡大防止に資するため喫緊の取り組みが必要な事案を優先的に分析

日本小児科学会雑誌Injury Alertにおける事故事例一覧

NO	事例
1	哺乳瓶・乳首の消毒剤(タブレット型)による喉頭狭窄
2	犬による咬傷
3	ゴムボールによる窒息
4	浴槽用浮き輪による溺水
5	計測器による大腿部圧迫
6	自転車のハンドルによる肝損傷
7	乳児用ベッドからの転落
8	マニキュア除光液による中毒
9	自転車用ヘルメットによる窒息
10	浴槽への転落によるやけど

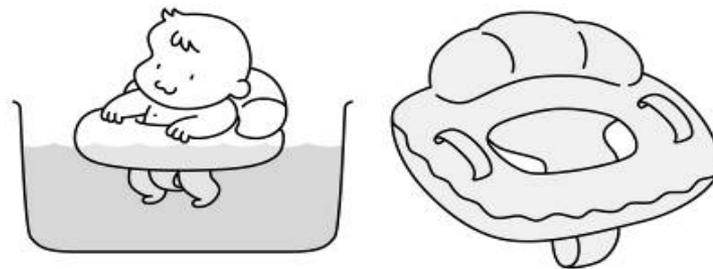
■ 分析・原因究明の推進の必要性

■ 事業者による改善策の実施・検討

事故概要例

- 件名：浴槽用浮き輪による溺水
- 発生日時：平成18年11月21日
- 被害児：0歳9か月男児
- 発生状況：母親が洗髪中、乳児はオムツ型浮き輪※に座り、浴槽に浮かんでいたが、浮き輪からはずれ、うつ伏せで浴槽に浮かんでいるところを母親が発見。
- 類似事案の発生：6件

※オムツ型浮き輪とは



(注) Injury Alertは、日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会が「重症度が高い傷害を繰り返さないためには、発生状況を詳細に記録することが不可欠」との観点から、2008年よりとりまとめ、公表している取組